鉄砲洲神社　論語素読　解説

（平成 22 年 9 月 3 日）

雍也第六

4　子　仲　弓を謂いて曰く、犂牛の子、騂くして且つ角あらば、用うること勿からんと欲すと雖も、山川　其れ諸れを舎てんやと。

孔子が仲弓の批評をしました。

犂牛はまだら牛で、あまり良くない牛です。

人が寄り付かないような、あまり尊重されないまだら牛の子でも、（この時代は赤い色が尊重されていますから）赤毛で立派な角があれば、いけにえに使う牛にすることが出来るだろう。山や川の神様は、親がいくらひどい牛であっても、子供が素晴らしければきちんといけにえを受けるであろう。

この内意は、ぐうたらで駄目な親であっても、子供が親孝行で有徳であれば世に受け容れられるに決まっているということです。

今、民主党の代表選が華やかなりし頃ですが、菅さんの親御さんのことは聞いたことがありません。市民運動から出て来た人ですから、親の七光りがありません。二世議員でなくても総理大臣に上り詰めることが出来る日本という国は、孔子が理想とした時代と多少なりとも相通じる部分があるであろうと感じました。

では、親が駄目な場合、子供はどうなるでしょうか。小沢一郎さんの子供の話は聞いたことがありません。小沢さんが総理大臣になったら日本の国は滅茶苦茶になると思っていますが、それより何より、逮捕されない為だとは思いますが、よくも国民を愚弄して代表戦に出て来たものだと思います。小沢さんが田中角栄さんを意識しながらやっているというのは、よく出てくる話です。田中角栄さんの娘の真紀子さんは、親が色々と問題があったけれども、親の七光と自分の光を合わせて出てきていると思います。

親が犂牛なら、その分、子供が頑張ればいいじゃないか考えれば良いと思います。この文章のポイントは、親が駄目でも子供がきちんとしていれば良いと捉えればよろしいし、そうすれば山や川の神様も応援してくれると読みました。

5　子曰く、回や其の心　三月　仁に違わず。其の余は則ち日に月に至るのみ。

三月とは、一ヶ月・二ヶ月・三ヶ月という意味ではなく、一・二・沢山という意味ですから、長い年月と思った方が当っています。

顔回はたいした者だ。顔回の心の中を推測すると、長い間私利私欲が一切なく、心が仁という徳から離れない。他の人たちは一日に１回、仁の氣分になる。又は、一ヶ月に１回仁の氣分になるものだ。

一日に１回、或いは一ヶ月に１回でも、仁という氣分になれるのは素晴らしい。なかなか仁というものにはお目にかかれないのだから、顔回が三ヶ月もの間、ずっと仁の徳から心が離れないのは非常に素晴らしい。三ヶ月も心が離れないというのは、生ある限り仁の徳から心が離れないだろうという意味が入っています。

世の為・人の為になるような、良いことをしようと考えて実行することを仁と考えた場合に、これほど正反対の世の中はないのではないかと思いました。子供が親を殺し、親が子供を殺し、政治家は本来政治家のすべき事をまるでしない。どんどん日本の国を悪くしようとしています。自分自身の私利私欲で動いているのが明らかだから、日本が沈没するのは、民主党が出て来たせいで相当スピードが上がったと感じます。今回、もし小沢さんが勝って総理大臣になったら、そのスピードは更に加速するだろうと感じています。１ヶ月に一回でよいから、ああいう人たちが仁という氣分に浸れると、日本が悪くなるスピードに少し歯止めがかかるのにな、と思ってここを読みました。

6　季康子問う、仲由は政に従わしむべきかと。子曰く、由や果なり。政に従うに於て何か有らんと。曰く、賜や政に従わしむべきかと。曰く、賜や達なり。政に従うに於て何か有らんと。曰く、求や政に従わしむべきかと。曰く、求や藝あり。政に従うに於て何か有らんと。

魯の国の宰相の季康子が孔子に聞きました。

「子路という人物は、政治の最高責任者として相応しいだろうか」

孔子が、「今頃何を言っているのですか。子路は決断力が素晴らしい。大事なことをすぱっと決める能力があるから、行政のトップに置くのは差し支えない」と答えました。

次に、「では、子貢はどうだろうか」と聞きました。

孔子が、「子貢は見通しが利く。事物の理に通じて能力がかなりあるから、物事に執着して滞らせることはない。政にあたるのに何も問題はありません」と答えました。

次に「では、冉有はどうだろうか」と聞きました。

孔子が、「冉有は多才の能力があるから、煩雑な事務や訴訟事をすぱっと処理できる。政にあたるのに何も問題はありません」と答えました。

子路はかなりの決断力があると言っていますが、現代に置き合せると、事業仕分けの蓮舫さんでしょうか。子路はとんでもない決断をする可能性があるけれども、蓮舫さんも事業仕分けに関して、とんでもない決断力を発揮しています。

子貢はイメージとしてちょっと合わないけれども、仙谷さんでしょうか。子貢は、孔子一門の門下生が飢えないようにする能力を持っていました。孔子は子貢はかなりの人物だったと持ち上げています。ただ鼻っ柱が強かったので困ったとも言っています。

冉有は煩雑な事務や法律事をどんどん処理できると言っています。そういう人は、どうも見当たりません。田中角栄さんが、多才な能力があるという部分で繋がったと感じますが、今の時代の政治家はそういう能力がないので、困ったものだと思います。

弟子一人一人の能力を孔子がよくわきまえて、政治家に推薦しています。こういう仕組みも悪くはないと思います。今の日本の仕組みに、そういうものが欲しいと感じます。